

心の健康投資勉強会 2025 開催レポート

2025年11月18日、一般社団法人心の健康投資推進コンソーシアムは、「心の健康投資勉強会2025」を開催いたしました。本勉強会には約100名が参加し、企業における心の健康投資の重要性と実践的な取り組みについて、参加者と共に考える貴重な機会となりました。

○開会挨拶

開会挨拶では、経済産業省ヘルスケア産業課の平井課長補佐が、心の健康問題の現状と課題について言及しました。日本において何らかの精神疾患を持つ人は約500万人、職場では3人に2人が強いストレスや心の不調を抱えており、心の不調は誰にでも起こりうるという現状が示されました。



平井課長補佐は、日本人特有の「心の不調を訴えない」文化にも言及し、心の健康投資を積極的に推進する必要性を強調しました。2021年から開始された調査により、多くの企業が健康経営においてメンタルヘルスの重要性を認識しているものの、企業の具体的な取り組みは十分ではなく、特に中小企業では進んでいないことなどが明らかになりました。

そこで経済産業省は、2023年に研究会を立ち上げ、心の健康投資を推進するための具体的な方策を検討してきました。その成果として、2025年4月に「心の健康投資実践ガイド」を公表し、10月10日には心の健康サービスの選択を支援するウェブサイト「ウェルココ®」をリリースしました。

最後に平井課長補佐は、心の健康投資は「守りの投資」ではなく「攻めの投資」であり、ストレスを抱える従業員のパフォーマンスを上げ、イノベーションを生み出す環境づくりが、最終的には企業価値の向上につながると語りました。

○心の健康投資実践事例紹介・ウェルココ®の紹介

勉強会の前半では、3社の先進的な取り組みが紹介されました。

森ビルホスピタリティコーポレーションの森田氏は、コロナ禍を契機に始めた健康経営の取り組みを発表。ウェルネスプログラムや瞑想アプリの導入により、離職率を低下させた成果を共有しました。

富士ソフトの藤井氏は、IT企業特有の職場環境におけるメンタルヘルスの課題に正面から取り組む姿勢を語りました。パルスサーベイの導入や休職者管理システムの構築により、組織的なメンタルヘルスケアの仕組みづくりを進めていることを報告しました。

株式会社東振精機の松田氏は、地方中小企業の立場から、心の健康投資に取り組む際の具体的なアプローチを提案しました。データ分析に基づく課題抽出や、経営陣を説得するためのエビデンス収集の重要性を強調しました。

また、松田氏は同社が2024年度の経済産業省の心の健康サービス導入支援事業に参加した経験から、心の健康サービス選択支援ツール「ウェルココ®」のデモンストレーションを交えながら活用を提案しました。

○ワークショップ・交流会

後半のグループワークでは、参加者が実際に「ウェルココ®」を活用し、自社に適した心の健康サービスを検討しました。各グループで活発な議論が展開されました。



○ブース展示

ホワイエには一般社団法人心の健康投資推進コンソーシアムの会員 10 社がブースを出展し、来場者へのサービス紹介や個別相談を行いました。



本会は、定員 100 名を超える 118 名の申込があり、心の健康投資への高い関心が示されました。

事後アンケートでは回答者全員が「自身の業務に参考になった・とても参考になった」と回答し、

「前半の事例がとても参考になった。」

「言語化する作業を後回しにしていた。」

「他社様の取組みが参考になったのと同時に自社の課題が明確になりました。」

「グループワークが楽しかったです。」

「（ウェルココ®を）ぜひ活用していきます。」

等、自社の課題解決に向けた具体的なヒントを得るとともに、今後の取り組みへの意欲を新たにしていました。

心の健康投資推進コンソーシアムは、今後も企業の心の健康経営を支援し、働く人々の well-being 向上に貢献してまいります。